

八采田
 日本学友会 田了
 村有真澄 詞
 女親 度

所先由里に飛出た私を落ちつく先きは
 何ん大五郎の九州さへうきうき未だ疑同なまの
 ず但し後見の交射の眼をれば更しに子則途暗
 々のあつたか水同しと私に疑内りす
 急に角へ挿を去るや十尾内外の思ふも
 りの如く雄を移りて岩形の回野式を意に
 私を静猫をいやすん先方相対物あり
 りるを云は彼雷轟しし雷をまず尤法は更し

廣混令 ありの何日ハ確定し

加其の日取り又時間を電報に左記

の折に通知し下さる但しヤシの現在

増折は友人にも秘密

電報は直方打つ下書 常柳岡懸と云ふ

字はほんの字引にあると云ふ柳岡田吉吉

左之唯機刺の電報は二日はかゝる

そうなから
 苗字中は乃る一宜新し

田川郡金川村岩屋

吉田内 彦彦健之

吉村直澄 氏